

最先端のものづくり発信

多治見ビジネスフェアが開幕

多治見市をはじめ県内外の企業が製品や技術をアピールする「第12回多治見ビジネスフェア『き』業展」が30日、多治見市東町のセラミックパークMINOで開幕した。31日まで。
(岡田敬史)

118社 陶磁器やIT、商談活発



同展は、地元の若手経営者らでつくる実行委員会と同市が主催。多治見商工会議所と東濃信用金庫が共催した。今年は、好機を逃さずビジネスチャンスをもぎとろうと、「ノアアウト満塁、バットー俺」をテーマに、東濃地域を中心にした県内と県外6県から118企業・団体が139のブースを出展した。陶磁器、刃物、食品、福祉・健康、IT・情報などさまざまな企業が自慢の製品や技術、サービスをPR。各ブースでは販売や活発な商談が行われた。会場

来場者でにぎわった「き」業展は多治見市東町、セラミックパークMINO

では多治見市内などの飲食店が出店したグルメコーナーもあり、にぎわっていた。

31日は県よろず支援拠点コーディネーターの三輪知生さんを講師に「ヒットを生むビジネスセミナー」も開かれる。

昨年は4080人が来場、40件の契約成立、18件の業務提携が成立した。